

金星人ヴァリアント・ソーの物語

1957年3月16日～1960年3月16日までアメリカ・ペンタゴンに滞在

►1957年3月16日ヴァージニア州アレキサンドリアに宇宙船が着陸した。

到着した金星の指導者は、かけつけた二人の警官に連れられパトカーでワシントンDCに向かう。武装した警備体制のもと、一行は地下列車でホワイトハウスに到着した。

三人のシークレットサービスが、彼をアイゼンハワー大統領の執務室に案内した。

金星の指導者はヴァリアント・ソーと名乗り、

大統領に最高議会の特別製の手紙を渡した。彼はこの惑星は1945年原爆が投下される以前にも数百年にわたって注意深く監視されていたことを断言した。

►…それから三年間、彼はペンタゴン(国防総省)の美しい家具がそろった個室で過ごすことになる。彼は長期滞在の準備を整えていたし、宇宙船と常に連絡を取り、護衛には超像を見せ、テレポートで出入りした。

大統領は彼に、地球人はまだ、地球外からの訪問者の助言が実行に移されたときに生じる状況に対応できるだけの準備を整えていない、と述べた。彼は、宇宙科学と直接関係のある医学プロジェクトに従事していた人々の手助けをして欲しいと要請された。しかし、その三年間、彼はスターヴオーズ計画には助言することを拒み続けた。彼の来訪の目的は、人類が神の御許へ帰るのを助けることであったという。

(彼の特徴)

- ・身長180cm、体重85kg、茶色の毛、茶色の目、肌色は普通、指に指紋がない

- ・やわらかな銀色とまばゆい金色をしたつなぎの制服(弾丸もレーザー光線も通さない、継ぎ目なし)

- ・人の心を読む又安心させる能力、テレパシー交信能力を持つ

(彼による情報)

- ・現在アメリカには金星から77人来ており、絶えず行き来している



- ・現在イエスキリストは、宇宙の支配者という正当な地位についていて人々の時間と場所を用意している
- ・宇宙の多くの惑星に生物はいる、人類には神の創造物すべての所有を主張する権利はない
- ・なぜなら不服従によって神の完全無欠な法を破ったからである
- ・地球では、自分の存在と意図は、政治・経済的構造に対し脅威となる
- ・提案を世界中に知ってほしかったが、国防長官、中央情報局長官、軍の参謀総長たちが異を唱えた

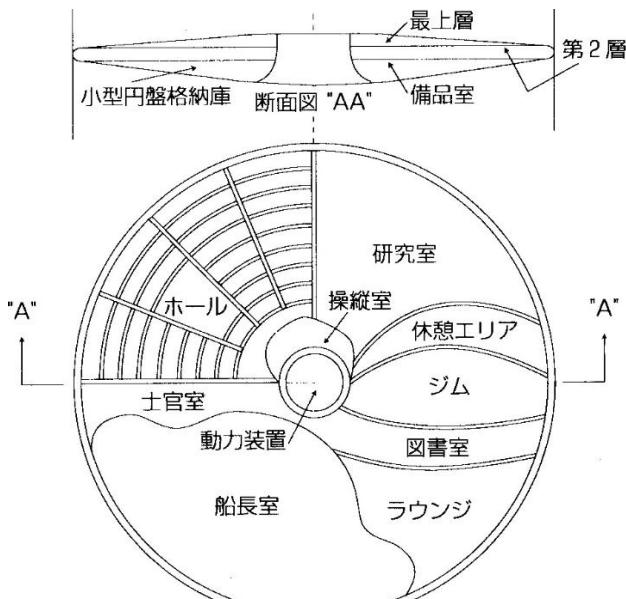
(金星議会からヴァリアント・ソーへの指示)

- ①地球人の間に溶け込んで生活すること
- ②地球の企業に就職し、働くこと
- ③世界平和を実現するために尽力している内に危険にさらされた人々を助けること
- ④その様な人々に助言と指導を与えること
- ⑤その資格があることを証明した人々に、卓越した知識を与えること
- ⑥彼らの使命の確信を、各国の指導者に明かすこと、但し時が至ったときに

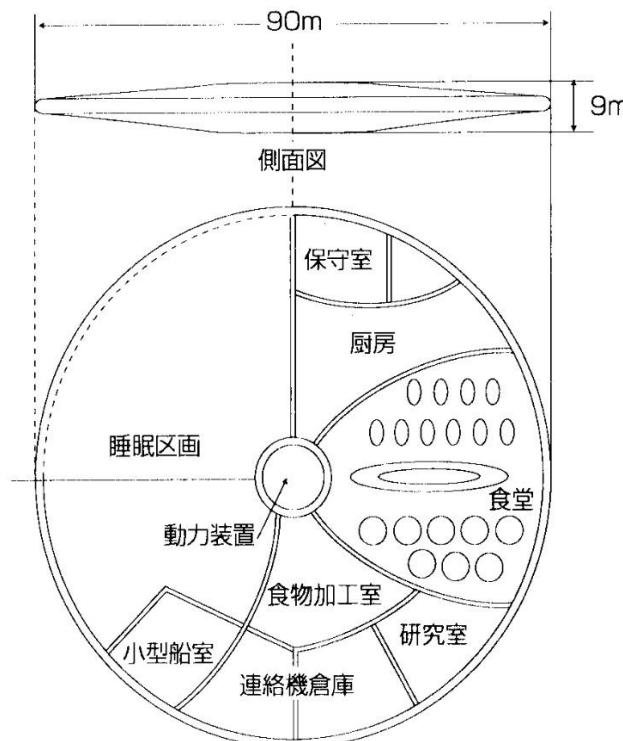
(ヴァリアント・ソーの任務)

- ①ヴィクターワンとスターシップの指揮
- ②金星12人会議の議長
- ③地球上の各地に設けられた前哨基地の管理
- ④地球上の諸都市を放射線から守っている特別舞台の監督
- ⑤諸惑星の定期的な巡回
- ⑥スターシップで開かれる他の太陽系からの訪問者のためのセミナーの運営
- ⑦世界各地の指導者の討議やもくろみの監視
- ⑧人類の特定の機関への一定の限度内で干渉して核戦争による破滅を防ぐ
- ⑨天にまします創造主と完璧に調和して働く

►1960年3月19日、彼は非物質化し、森に隠してあった乗組員が待つ宇宙船に乗り帰星した。 金星に着くと、彼は中央管理機構議会に出席し地球訪問に関する報告を行った。 人類に助言と助力を与えようという申し出をアメリカの指導者達に受け入れさせることに失敗したと伝えた。



ソーコマンの宇宙船最上層平面図



- 【宇宙船】**
(ヴィクター・シリーズ)
 - 地球上に287機、大陸や大洋や国にとどまっている。
日本には29機。
 - 2千km以内の人間の行動・言葉を選択して拾い上げ、記録することが可能である。
 - マスタービームで制御され、通信には、テレパシー、ホログラフィー等を用いる。
 - ヴィクター・ワンの乗組員約200人
(司令官)
ヴァリアントソー
(副司令官)
ドン、ソン
ティール、ドク

【宇宙教室のテーマ】

(宇宙船内)

- A-地球科学
- B-地球人とその習俗
- C-人類の堕落とイス・キリストの救済
- D-人間の心理
- E-人間の理性
- F-人類の歴史
- G-宇宙における人類の根源的位置

【炎の環】—宇宙人が地球救済に来るときの祈りと儀式—

►眞の光に至る歩み…神の加護を得る祈り…

地球上で行われている邪悪な影響、つまり戦争、犯罪、不調和、不統一、非人道的行為、破壊的行為を受けず、炎の環があなたを守ってくれる
いつでもどこでも祈りを唱えて、炎の環に守ってもらえる方法

①白いローソクを立てる

(儀式中は何があろうと何かに邪魔させてはならない)

②主の祈りを唱える

天にましますわれらの父よ……

③次の祈りを唱える

『永遠の父、宇宙の造物主…、本日はわたしの願いをお聞きください
いまこのとき…聖なる炎の環で…神のご加護の炎で…

神の豊かさの炎で…完全な癒しの炎で…

聖なる豊かさの炎でお包みください

全能の神の手をわたしのためにふるってください…お願いいいたします
いまこのときに…主イエス・キリストの神聖な名前にかけて…アーメン』

・祈っている間、目を開いて、両手を天へ向けてのばす、

・炎を見つめ、五官を研ぎ澄ます。

・自分が何をしているのかを常に意識する、祈りをはっきりと繰り返す。

・祈りを唱えているまさにその瞬間、造物主がお聞きになっていることを忘れないように!

④集注し願望を炎の中に送り込む

ここで、ローソクを見つめ、心からの願望という願望、問題という問題を、炎の中に送り込む。

⑤ローソク消灯、炎の輪を感じ、祈願成就のさまを見る

ローソクを消し、立ちのぼる煙が神の鼻に吸い込まれ、あなたの祈りが



聞き届けられるさまを見る。

少なくとも三分間は、部屋から出てはいけない。

火の消えたローソクの前に立ち、目を開いたまま「炎の環」の存在を感じる事。

資料 「大統領に会った宇宙人」
フランク・E・ストレンジス博士)